

文部科学省物品・役務等契約監視委員会（第60回）議事概要

開催日及び場所	令和4年12月21日（水） 文部科学省会計課会議室及びリモートオンライン会議	
出席委員 (敬称略)	○委員長 有川 博（日本大学客員教授） ○委員 大谷 益世（公認会計士） 楠 茂樹（上智大学教授） 清水 光（弁護士） 松浦 亨（北海道大学病院客員診療教授）	
審議対象期間	第2四半期（令和4年7月1日～9月30日）	
個別審査案件	8件	○議事 (1) 令和4年度第2四半期の物品・役務等契約に係る審査 (2) 個別審査案件 (3) 随意契約事前確認公募実施案件に関する意見聴取 (4) その他
一般競争入札方式	5件	
最低価格方式	1件	
最高価格方式	0件	
総合評価方式	4件	
指名競争入札方式	0件	
最低価格方式	0件	
総合評価方式	0件	
随意契約方式	3件	
企画競争	1件	
公募	0件	
競争性のない随意契約	1件	
不落随意契約	1件	
事前審査案件	0件	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	別紙のとおり	
委員会による意見の内容	審議の過程で検討や見直しをしていただきたいと申し上げた点については適切に対応をお願いすることとし、全体としては問題なく処理されている。	

質 問 ・ 意 見	回 答
<p>宿題事項について</p> <p>「不正アクセスリアルタイム防御及び監視業務」</p> <p>【一般競争入札（最低価格落札方式）】 （科学技術・学術政策研究所）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究所全体の情報システムの維持管理を行っている業者と不正アクセスリアルタイム防御及び監視業務を請け負っている業者は同一か。 <p>個別審査案件について（以下、審査順）</p> <p>① 「学制150年記念式典に係る会場等の借上げ一式」</p> <p>【随意契約（競争性のない随意契約）】 （大臣官房会計課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変更契約において出席者が予定より随分減ったという記載があったが、出欠は直前まで分からないものなのか。座席数との関係でこの辺りはどのように考えればよいか。 ・出席者の最大数を想定して数値を出されたと思うが、出席者が確定した時点で、出席者が減したことにより契約の相手方と変更契約が可能かどうかという交渉は行ったのか。 <p>② 「令和4年度 新時代の学びを実現する学校施設整備・活用推進プラットフォーム構築・運用業務委託事業」</p> <p>【一般競争入札（総合評価落札方式）】 （大臣官房文教施設企画・防災部）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究所全体の情報システムに係る機器の賃貸借及び維持管理を行う業者と、不正アクセスリアルタイム防御及び監視業務を行う業者は別である。 <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ早めに数を確定させたいところではあったが、どうしても直前まで決まらず、人数に関してはかなり変更が生じた。 ・他の要因については変更契約を行ったが、人数の部分はどうしても直前まで確定しないことから、それを原因とした変更契約はできなかった。

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の規模感等が全く見当がつかない場合には事業規模を明示するのだと思うが、本件でそれを明示する必要があったのか。 ・競争性を確保するため、活用推進プラットフォーム構築の業務と、それを運用する業務に分けて調達することはできなかったのか。 ・「過去に類似の業務をした実績があること」という要件について、類似業務とは何を指すか。 ・実績要件を入札参加資格要件とはせず、総合評価の基礎点とする以上は、具体的に基準を定めないと参入障壁になる可能性があるため、ぜひ改善を検討していただきたい。 <p>③ 「図書（「政官要覧」等）の購入 一式」 【随意契約(不落・不調随意契約)】 (大臣官房政策課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再販制度があるのに入札を行っているのはなぜか。 <p>(予定価格の立て方について質疑応答が行われたが、予定価格を類推される恐れがあるため非公開とする)</p> <p>④ 「校務系・学習系ネットワークの連携に関する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、事業内容に含まれているアドバイザーの相談件数等が当初の段階で見積もれないものになっていたため、労務の量を推し量る上でも事業規模を明示する必要があったと考えている。 ・分割発注は可能だと思うが、検討する。 ・会社としてシステム構築などのウェブデザインに関しての業務実績があることと、建築あるいは空間的なデザインに関する業務実績があることが、それぞれ達成されていればクリアできると考えている。 ・承知した。 <ul style="list-style-type: none"> ・本件については冊数が多いため入札をしている。再販制度との関係については、出版社が入札を承知していれば問題はないと認識している。
--	--

実証研究事業」

**【一般競争入札（総合評価落札方式）】
（初等中等教育局）**

- ・参加希望自治体が少なかったということだが、そこについてはどのような分析をされているか。
- ・公告から説明、実際の開札まで、かなり期間が短かったように思えるが、何か特段の事情があったのか。
- ・参加自治体が増えれば増えるほど、業者の選択の幅が広がることになるため、参加自治体を増やしていく工夫が根幹の問題となる。実証校や自治体にメリットがあるということをアピールする必要があるのではないか。

⑤ 「研究者の交流に関する調査」

**【一般競争入札（総合評価落札方式）】
（科学技術・学術政策局）**

- ・過去の類似業務において、ずっと同じ企業が落札しているのか。また、契約金額が過去と比較して今年度増えているのはなぜか。
- ・総合評価基準における過去に類似の調査を実施した実績の、この「過去に類似の調査」というのは何をイメージしているのか。

- ・学校や教育委員会の部局をつなぐネットワーク構成に手を加えてもらうことになるため、どの自治体においてもすぐできることではなく、実施の可能性も検討いただく必要があったためであると考えている。
- ・技術的に難しい実証事業であり、なるべく事業者の検討時間を確保したかったため、早期に説明会を開催した。また、早めに契約を締結したいという思いはあったが、事業者の作業負担を考慮し、提案書の受領期限を当初公告の20日から24日に延長した。
- ・新しくチャレンジングなことをやってみた、それを成し遂げることができたということがネットワーク担当者のノウハウにもなると思っていたが、我々の想定以上に現場の負担が大きかったと思っている。今後、調達を工夫していきたい。

- ・そのとおりである。契約金額が増えたのは、新たな調査項目を追加したためである。
- ・基本的には大学や研究機関に対しての調査経験を想定している。

・「類似の調査」について、説明会で具体的に説明しているのか。

・基礎点とするなら類似の業務の実績を明確に定義しないと基本的に参入障壁となると思われる。無難なのは加点項目にしておいて、実績が本当に必要なのであれば参加資格のところで具体的に書いて入り口のところである程度振り分けるという選定である。公正な選定の仕方をする工夫を検討していただきたい。

・説明会に参加した企業が応札しなかった理由は把握しているか。競争性を確保するために一層の工夫が必要だと思われる。

⑥ 「活断層評価の高度化・効率化のための調査手法の検証」

【随意契約（企画競争方式）】 （研究開発局）

・複数者からの提案が各要素でそれぞれ良い提案だった場合は、複数者を採択する可能性もありとあるが、どのように理解したらいいか。その提案全部を採択しない、一部だけ契約するというようなことがあり得るとのことか。

・本件は、前回調査をした者がそれを今回検証するという流れになってしまうと思うが、いかがか。

・前回の業務と、今回発注した業務の内容はどういう関係になるのか。

・経年変化を追っている調査であり、昨年度と同じようなデータを求める調査であるということは説明しているが、過去の類似事例の明示的な説明はしていない。

・承知した。説明会には参加したが入札しなかった企業からは、アンケートへの回答がなかった。

・テーマごとに、複数者からいい提案があればそれぞれ採用するというのを考えていた。各テーマの合計が総予算になるので、それぞれのテーマの中での提案額に基づいて、総額の範囲内で契約するという形になる。

・過年度事業の受託者に多少有利なところはあると思うが、決してその者だけしかできないわけでもないという理解している。

・過年度事業では、確率が不明であった断層に関して、それが確率が分かるような新たな手法を適

<ul style="list-style-type: none"> ・そもそも新規参入は可能なのか。 ・どのようにすれば新規参入が可能だと考えているか。公募要領の記載が新規参入者には分かりづらいのではないのか。 ・この事業については継続するようなので、きちんとほかのところが参入できるような形で公募していただきたい。 <p>⑦ 「学校連絡調整にかかる実施支援業務 一式」 【一般競争入札(最低価格落札方式)】 (国立教育政策研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕様書によると、システム構築を含めたオペレーションという業務内容のようだが、契約の件名が「学校連絡調整にかかる実施支援業務」となっていて、業務内容と全く合わないのはなぜか。 ・前年の落札業者が改修はできないと言った主な理由は何か。また、開発のときの金額の3倍ぐらいで改修をしているが、これは改修してくれる業者がないことが要因か。 	<p>用して確率を出してみる試行を行った。新事業は、その新たな手法と従来の手法とはどれぐらいの違いがあるのか、どう違うのか、新しい手法が使えるかどうかということを検証するための事業である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該分野に詳しい方が複数いれば可能だと思うが、大学単独で複数名用意するのはなかなか難しいのではないのか。 ・公募要領については、もう少し何をやっているかが分かるように改善したいと考えている。新規参入者を呼ぶための努力については、説明会を開催することや、事業の開始を早めて事業の実施期間を長くすることはやっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・前年度契約業者が応札できないことが判明し、市場調査で参入可能業者も現れなかったことから、仕様書としてはほぼシステム開発の改修の仕様だが、システム改修ができなくても人力で学校との連絡を取る業者が入札する可能性も期待して、このような名称にした。 ・前年度の応札額が低廉だったと考えている。改修額については、前年度のシステム開発が低廉だったが、それであってもやはり一者応札ということで、ほかにも競争参加者がいればもう少し安価
---	---

<ul style="list-style-type: none"> 前年の事業内容と今回の事業内容について、同じ業者がやってくれなかった事情あるいは金額がこのように大きくなった事情をきちんと整理し、対外的に説明できるよう、理論武装しておいていただきたい。 <p>⑧ 「令和4年度文化庁映画週間の企画運営」 【一般競争入札（総合評価落札方式）】 （文化庁）</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合評価の評価項目において、過去に類似の事業を行った実績が要件となっており、基礎点であり、かつ加点項目となっている。基礎点を満たさないと入り口で失格となるが、この過去の類似の事業というのは何を指すのか。 どのくらいの事業者がいると考えているか。 類似の事業ということで説明があったが、映画ではなく文化事業におけるお祭りやシンポジウムを開催した業者ではこの事業はできないという考え方で基礎点にしているという理解でよろしいか。 「過去に類似の事業」は業務内容からいって映画関係だろうというのは参入業者も察しがつくとは思いますが、「過去に類似の事業」と、映画だけに限定するということが必ずしも明確に書いていないよう 	<p>に契約ができたのではないかと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 承知した。 映画に関する上映会の実施や、シンポジウムの開催を想定している。 映画祭などは全国規模で行われており、その中ではシンポジウムや上映会も行われているため、複数いると思われる。また、それ以外にも映画に関する展覧会やシンポジウムを映画祭とは別にやっているところもあるため、一定程度はいると考えている。 その理解のとおりである。例えばこういったシンポジウムで誰を選ぶかや、こういった企画を行うかといったところにはかなり専門性が要求されると思われるため、やはり映画ということが必要になると考えている。 承知した。
---	--

<p>な表現を基礎点としているのは今後の検討課題である。業者では解釈がいろいろあり得るような抽象的な表現で基礎点をつけるやり方は見直していただきたい。</p>	
---	--